

会 議 要 旨

会 議 名 称	令和 6 年度加古川市環境審議会
開 催 日 時	令和 7 年 2 月 6 日（木）午後 2 時 00 分から午後 3 時 00 分まで
開 催 場 所	加古川市役所 新館 10 階 大会議室
出 席 者	<委員>（敬称略、順不同） （出席者：15 名） 河合豪史、工藤仁、久保田四郎、下村千登勢、山尾昌弘、山本亜也夫、石田弘明、奥勇一郎、佐竹邦子、増原直樹、坂本美德、富岡頼史、瀬嶋宏枝、藤原昌、守家和子 （欠席者：4 名） 成川秀次、前島克彦、久保はるか、豊田陽介 <事務局> 岩崎泰央、新濱義孝、福山新一郎、岩坂真吾、藤本雅彦、辰巳剛成、山田智子、松本勝稀
会 議 次 第	1 開 会 2 委嘱状交付 3 部長あいさつ 4 会長・副会長の選出 5 議事 ・部会設置（案）及び各部会に所属する委員について 6 報告事項 ・加古川市の温室効果ガス排出量について ・第 3 次加古川市環境基本計画（改定版）の施策の取組結果について 7 その他 8 閉会
配 布 資 料	資料 1 加古川市環境審議会委員名簿 資料 2 部会設置（案）について 事務局案 各部会に所属する委員について 資料 3 加古川市の温室効果ガス排出量について 資料 4 第 3 次加古川市環境基本計画（改定版）の施策の取組結果 参考資料 加古川市環境審議会規則
傍聴者の数	0 人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	1 開会 2 委嘱状交付 3 部長あいさつ 4 会長・副会長の選出 委員の互選により、会長には奥委員、副会長には山本委員を選出。 5 議事
（事務局）	・部会設置（案）及び各部会に所属する委員について 地球温暖化対策部会、自然環境部会、環境保全部会の3つの部会を設置し、各部会に所属する委員を決定。
（事務局）	6 報告事項 ・加古川市の温室効果ガス排出量について 令和2年度の加古川市域の温室効果ガス排出量について報告。
（事務局）	・第3次加古川市環境基本計画（改定版）の施策の取組結果について 令和6年度に実施した補助事業、環境教育・啓発事業及び庁舎での取組について報告。
（委員）	2点お伝えしたいことがある。1点目は窓断熱の補助事業についてで、とても良い事業であるが、執行率が乏しく、もったいなく感じる。市民が窓断熱に取り組むための仕掛け作りが必要ではないか。例えば現在、実施されている商業施設での啓発イベントの際に窓断熱化することによる効果をPRしてはどうか。単相窓と二重窓の模型を用意し、窓断熱化の効果を実感いただいた後に、補助があることを伝えれば、補助の利用も促進されるのではないかな。 また、行政が作成することは難しいかもしれないが、施工業者のリストを市が公表すれば、市民の方も補助事業を実施しやすくなるのではないかな。 せっかくの素晴らしい事業なので、市民の方が活用しやすいように事業の見直しを図ってはどうか。 2点目は公共施設の取組についてで、令和6年度に電気自動車を9台導入したことは非常に素晴らしいと思う。更にV2Hを導入すれば、災害時のレジ

	リエンス対策にも繋がるがそういった設備の導入も進めているか。 (事務局) Ⅰ点目の窓断熱についてですが、国も同様の補助事業を実施しているが国補助金と市補助金の併用は不可としている。また、市は国が補助対象外としている安価な改修を補助対象としたが、結果的には国補助金を活用された方が多い。 周知方法については、セミナーなどで窓断熱をはじめとした省エネ設備の導入による効果の見える化を図り、伝えていければと思う。 業者のリスト化は難しいが、ゼロカーボンパートナー事業者には「かんきょう出前講座」の講師を依頼し、令和6年度も太陽光発電設備に関する講演を行っていただいくなど、設備の導入による効果をPRいただいた。引き続き、行政として可能な範囲での周知を図っていく。 またV2Hについては、先ほどご紹介した野口公民館にはV2Hではないが外部給電口の整備は行っている。こういった設備の導入は脱炭素に資する取組でもあるが、災害時のレジリエンスの強化に関係することでもあるので、防災担当課とも連携し、公共施設へのV2Hの導入を進めていく。 (委員) 私も窓断熱の補助がⅠ件ということが気になっていた。先ほどの説明では国の補助を活用される方が多いとのことであったが、それを含むと加古川市においては相当数の窓断熱化が進んでいるのか。 (事務局) 国の補助件数は把握していないが、国の補助金の予算も概ね執行しており、大変好評であると聞いている。 (委員) 周知方法については市民にはもちろんのこと、施工業者等への周知も検討いただければと思う。 (事務局) 補助事業実施前には対象となる設備に関連のある組合には事業の説明を行い、施工業者から市民の方に周知を図っていただいた。おかげさまで施工業者が市民の方の代理で申請するということが多かったのも多かったので、引き続き、市からの周知をはじめ、事業者との連携による周知にも力を入れていく。 (委員) 商業施設での啓発イベントについてですが、非常に多くの方に参加いただいたとのことであるが、参加者からどのような感想があったか。また、新たな気付きとなるような意見はあったか。
--	--

(事務局)	商業施設での開催であり、親子での参加が多いことから親と子それぞれを対象とした展示ブースを設けている。親を対象としたブースは家庭でできる節電・節約の術の紹介を行っており「地球温暖化を難しく考えていたが、小さな取組もCO₂の削減や光熱費の節約に繋がることを認識した」という感想をいただいている。
(委員)	充電ステーションの補助事業についてであるが、特に急速充電ステーションの執行率に苦慮されているが、急速充電ステーションの執行率が乏しい要因は何か。
(事務局)	急速充電ステーションは初期投資が高く、補助金を活用しても設置費用の回収が困難であるため、導入を見送られる方が多く、執行率も伸び悩んでいると分析している。
(事務局)	令和6年度の事業実績の報告とは別に令和7年度に考えている電力の地産地消についても報告する。現在、高砂市、稲美町、播磨町、加古川市で運営している広域ごみ処理施設「エコクリーンピアはりま」のごみ焼却によって発生した電力は売電し、地域外に流れている。この電力を2市2町内で活用するために、地域新電力会社を半官半民の第3セクターで立ち上げ、エネルギーの地産地消を図っていく。
(事務局)	7 その他 生物多様性かがわ戦略の別冊の作成について連絡。 8 閉会